
安城市
こども計画策定に関するアンケート調査
【結果報告書 概要版】

令和6年 6月
安城市

目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要.....	1
3. 報告書の見方.....	1
【調査結果の考察】	
基本目標 1 こどもまんなか社会に向けた気運醸成.....	3
基本目標 2 こども・若者等の心身の健康づくり.....	7
基本目標 3 こども・若者が安全に暮らせる環境づくり.....	10
基本目標 4 こども・若者が希望を持てる社会づくり.....	15
基本目標 5 子育て・教育に係る支援の充実.....	19
基本目標 6 支援が必要なこども・若者への支援.....	26

1. 調査の目的

本調査は、令和6年度に策定する「安城市こども計画」の資料として、保育ニーズ、安城市の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯やこども・若者の生活実態、今後の要望・意見などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査概要

- 調査地域：安城市全域
- 調査対象：安城市内在住の就学前児童の保護者
安城市内在住の小学生児童の保護者
安城市内在住の小学5年生・中学2年生
安城市内在住の16歳～39歳の市民
- 抽出方法：住民基本台帳より、就学前児童保護者1,500人、小学生児童保護者1,500人、小学5年生・中学2年生各1,000人、16歳～39歳の市民1,000人の合計6,000人を無作為抽出
- 調査期間：令和6年1月31日～2月16日
- 調査方法：就学前児童及び小学生児童の保護者は郵送による配布・回収
小学5年生・中学2年生及び16歳～39歳の市民は郵送配布・webでの回答

調 査 票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就学前児童保護者	1,500	757	50.5%
小学生児童保護者	1,500	743	49.5%
小学5年生・中学2年生	各 1,000	770	38.5%
16歳～39歳の市民	1,000	376	37.6%
合 計	6,000	2,646	44.1%

3. 報告書の見方

- 設問文の末尾にある番号は各調査票の設問番号を表しています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

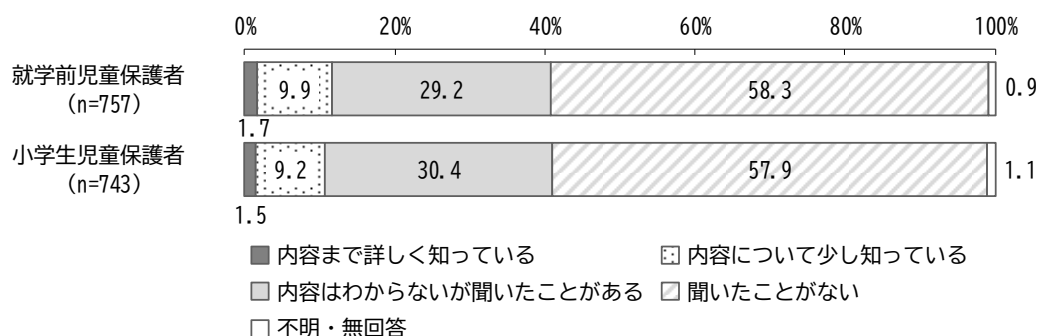
- 図表中の「n(number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 小・中学生調査では、学年不明の回答が1件あったため、小学5年生と中学2年生で分けて表示しているグラフにおいては、集計対象者総数が769となり、有効回収数770と一致しません。
- 就学前児童保護者調査及び小学生児童保護者調査において、比較に使用している「前回調査」は、平成30年12月に実施した「安城市子ども・子育てに関するアンケート調査」を指します。

基本目標1 こどもまんなか社会に向けた気運醸成

(1)こどもの権利について

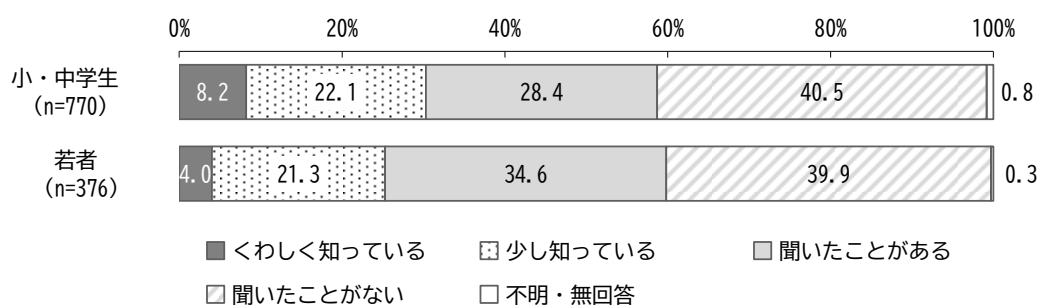
①「こども基本法」の認知度 [就学前児童保護者：問 29、小学生児童保護者：問 21] <単数回答>

「聞いたことがない」が就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに6割近くとなっています。



②「こどもの権利」の認知度 [小・中学生：問 31、若者：問 38] <単数回答>

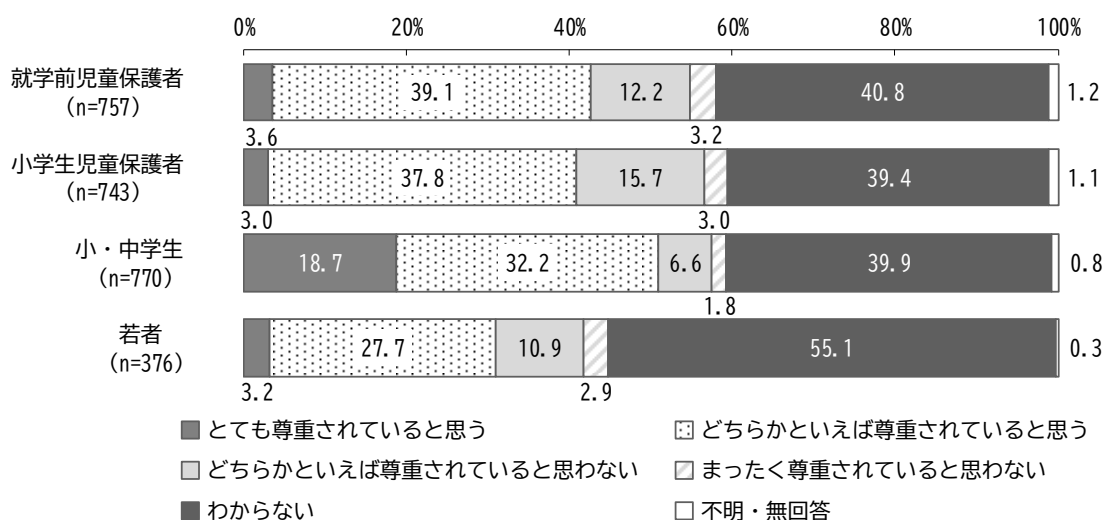
「聞いたことがない」が小・中学生、若者ともに4割前後となっています。



③安城市では、こどもの権利が十分に尊重されていると思うか

[就学前児童保護者：問 30、小学生児童保護者：問 22、小・中学生：問 32、若者：問 39] <単数回答>

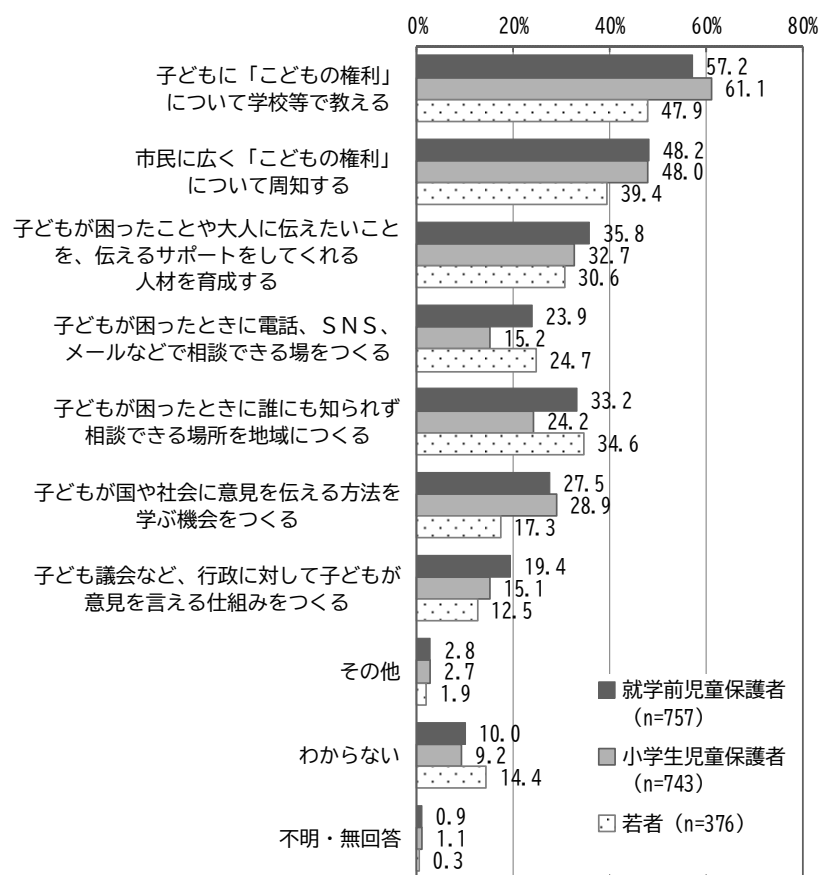
「とても尊重されていると思う」が小・中学生で18.7%と、他の調査対象と比較して高くなっています。



④「こどもの権利」を守るために、あると良い仕組み

〔就学前児童保護者：問 31、小学生児童保護者：問 23、若者：問 40〕〈複数回答〉

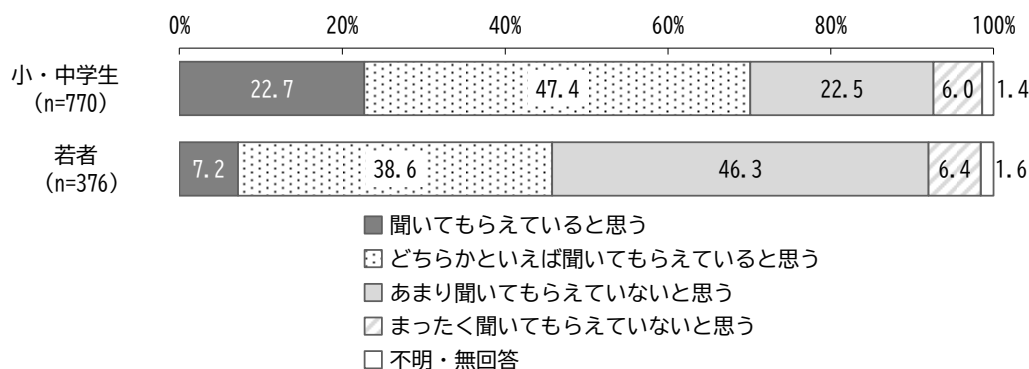
いずれも「子どもに「こどもの権利」について学校等で教える」が最も高くなっています。



⑤安城市の取組において、こども・若者の意見を聞いてもらえていると思うか

〔小・中学生：問 34、若者：問 41〕〈単数回答〉

「聞いてもらえていると思う」が小・中学生で22.7%と高くなっている一方で、「あまり聞いてもらえていないと思う」が若者で46.3%と高くなっています。



【考察】

「こども基本法」や「こどもの権利」の認知度について、いずれの調査においても4～6割が「聞いたことがない」と回答しており、今後の更なる周知が必要となっています。また、安城市でこどもの権利が尊重されていると思う割合や、安城市の取組において意見を聞いてもらえていると思う割合が若者においてやや低く、特に若者に向けた取組を充実させていく必要があります。

(2)こどもまんなか社会の実現や地域について

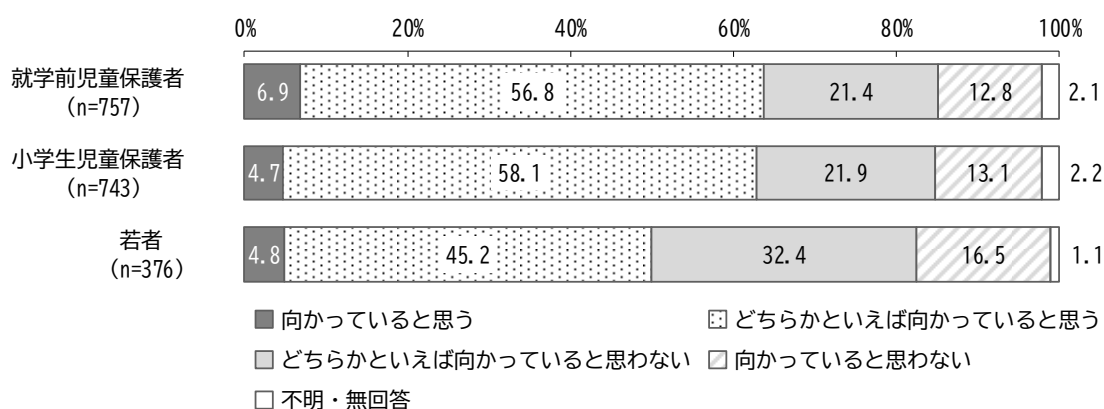
【こどもまんなか社会とは】

全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会のことです。

①安城市において、「こどもまんなか社会」の実現に向かっていていると思うか

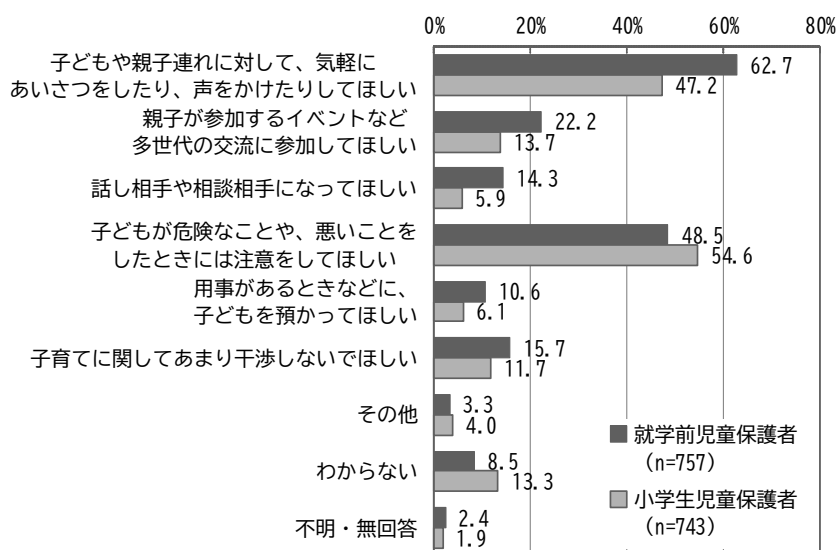
〔就学前児童保護者：問 26、小学生児童保護者：問 18、若者：問 31〕〈単数回答〉

『向かっていると思う』（「向かっていると思う」と「どちらかといえば向かっていると思う」の合算）が若者で 50.0％と、就学前児童保護者、小学生児童保護者と比較して低くなっています。



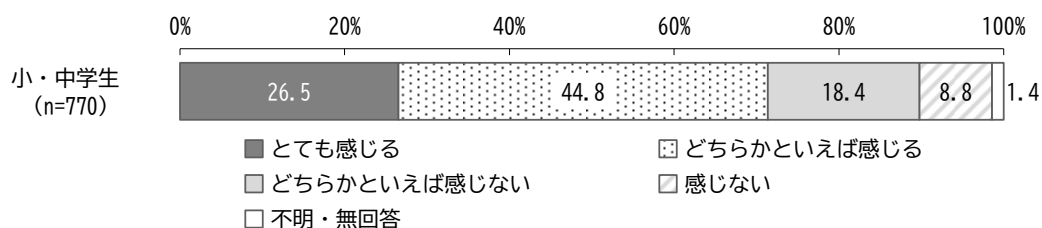
②子育てに関して、地域の人に望むこと〔就学前児童保護者：問 24、小学生児童保護者：問 16〕〈複数回答〉

「子どもや親子連れに対して、気軽にあいさつをしたり、声をかけたりしてほしい」が就学前児童保護者で 62.7％、「子どもが危険なことや、悪いことをしたときには注意してほしい」が小学生児童保護者で 54.6％と、それぞれ一番高くなっています。



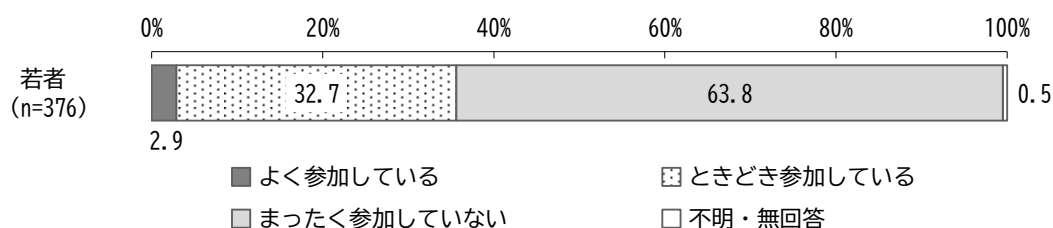
③ふだんから地域の人に見守られていると感じるか [小・中学生：問 30] <単数回答>

『感じる』（「とても感じる」と「どちらかといえば感じる」の合算）が71.3%となっています。



④地域の活動や行事への参加頻度 [若者：問 32] <単数回答>

6割以上が地域の活動や行事に「まったく参加していない」と回答しています。



【考察】

安城市において、「こどもまんなか社会」の実現に『向かっていると思う』がいずれの調査でも5割以上を占めていますが、若者ではやや低くなっており、若者が「こどもまんなか社会」を実感できるような取組が求められます。

地域に望むことでは、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに、あいさつや声かけ、危険なこと等をしたときの注意が高くなっています。小・中学生ではふだんから地域の人に見守られていると感じる割合が7割以上を占めており、地域との関わりがみられますが、若者では地域の活動や行事に参加していない割合が6割以上を占めており、特に若者において地域とのつながりが希薄になっていることがうかがえます。

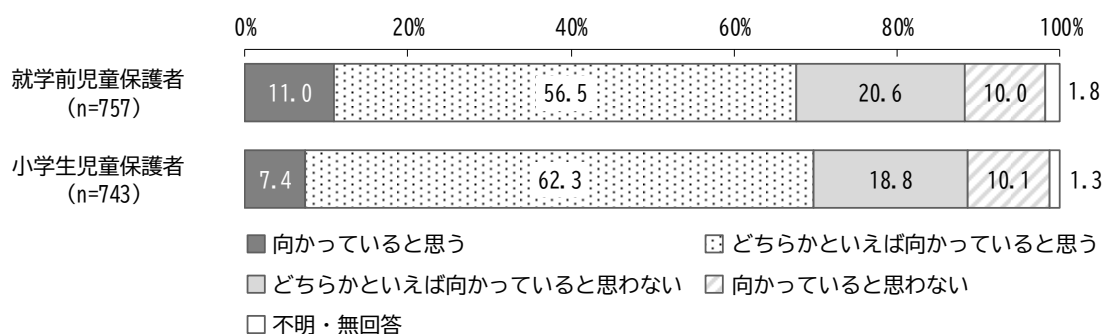
基本目標2 こども・若者等の心身の健康づくり

(1)妊娠、出産、子育てにかかる一体的支援について

①安城市では、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっていると思うか

〔就学前児童保護者：問 27、小学生児童保護者：問 19〕 〈単数回答〉

『向かっていると思う』（「向かっていると思う」と「どちらかといえば向かっていると思う」の合算）が就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに7割近くとなっています。



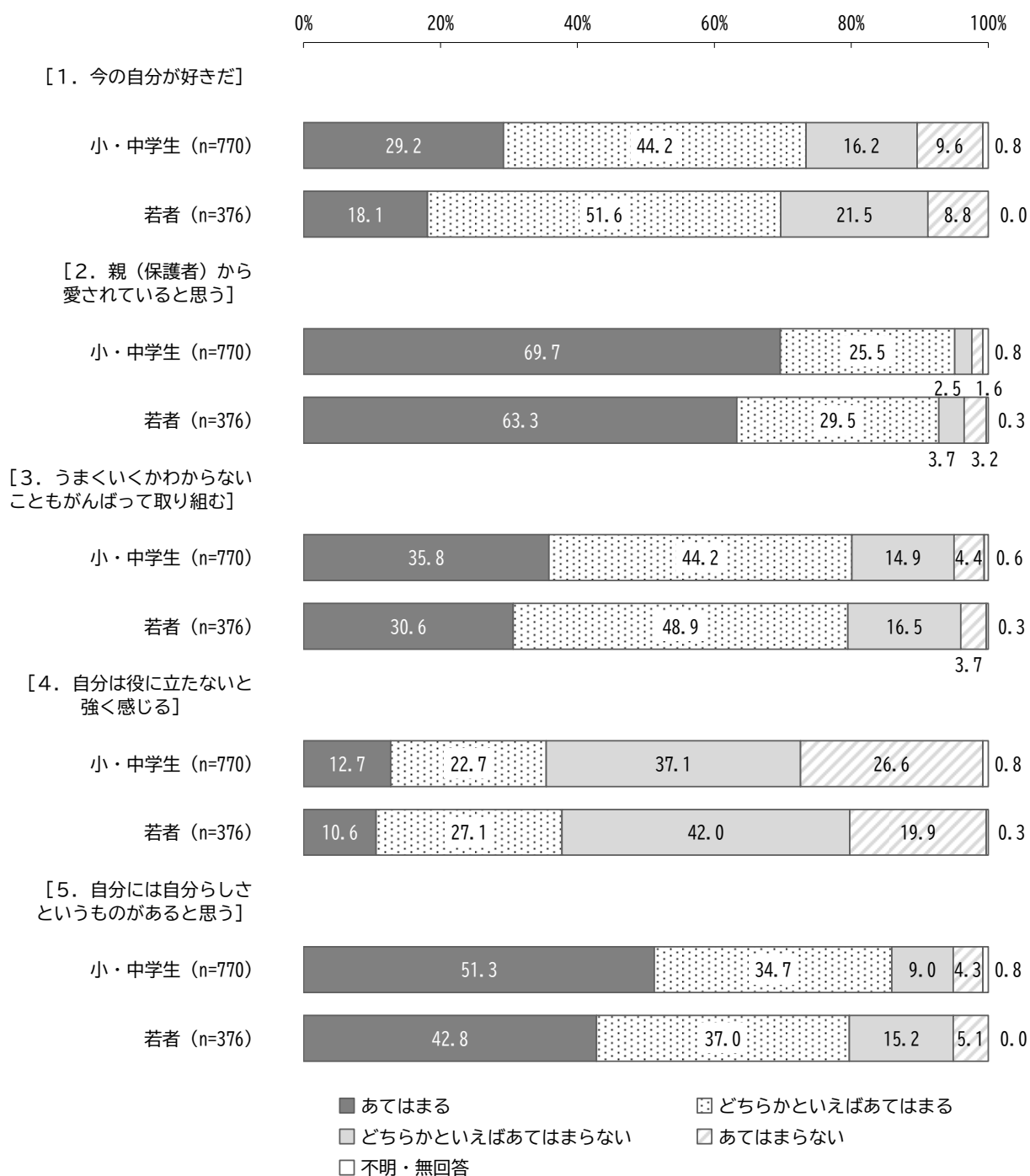
【考察】

安城市において、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に『向かっていると思う』が約7割、『向かっていると思わない』が約3割となっています。本市においても少子化が進む中、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援に向けた取組が必要です。

(2)子ども・若者の心身の健康について

①自身の思いや気持ちについて [小・中学生：問 13、若者：問 16] <単数回答>

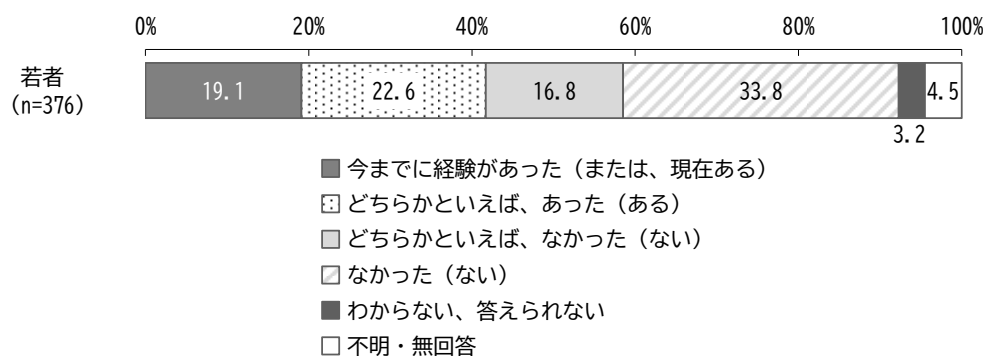
『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合算）が〔2．親（保護者）から愛されていると思う〕で小・中学生、若者ともに9割以上と高くなっています。また、〔4．自分は役に立たないと強く感じる〕で『あてはまる』が小・中学生、若者ともに3割以上となっています。なお、〔5．自分には自分らしさというものがあると思う〕で『あてはまる』が小・中学生、若者ともに8割前後と高いものの、若者で小・中学生よりやや低くなっています。



②今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験があったか

【若者：問 15】〈単数回答〉

『今までに経験があった（または、現在ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」と「どちらかといえば、あった（ある）」の合算）が41.7％となっています。



【考察】

自身の思いや気持ちについて、いずれの問いにおいても、こども・若者ともに約7～9割が肯定的な回答となっています。

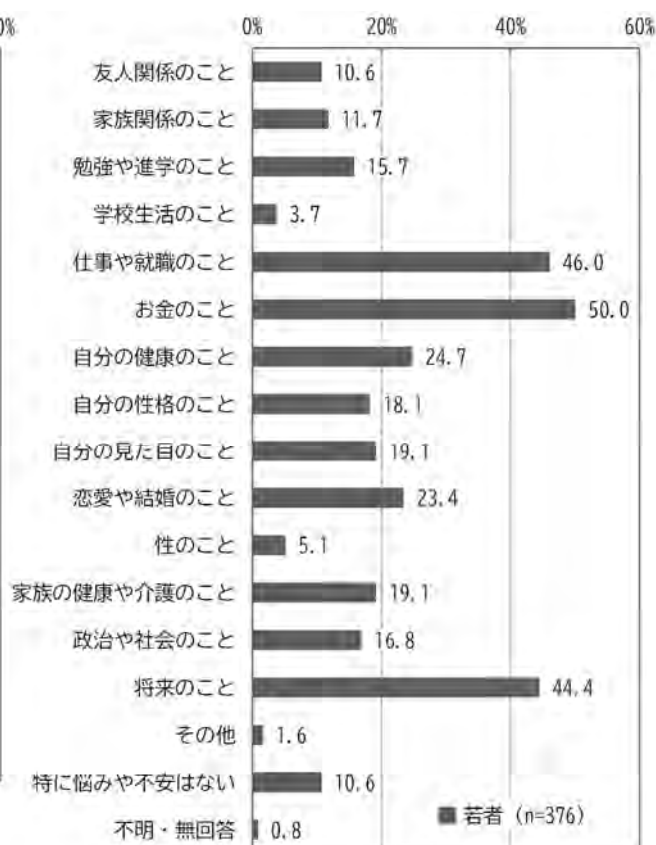
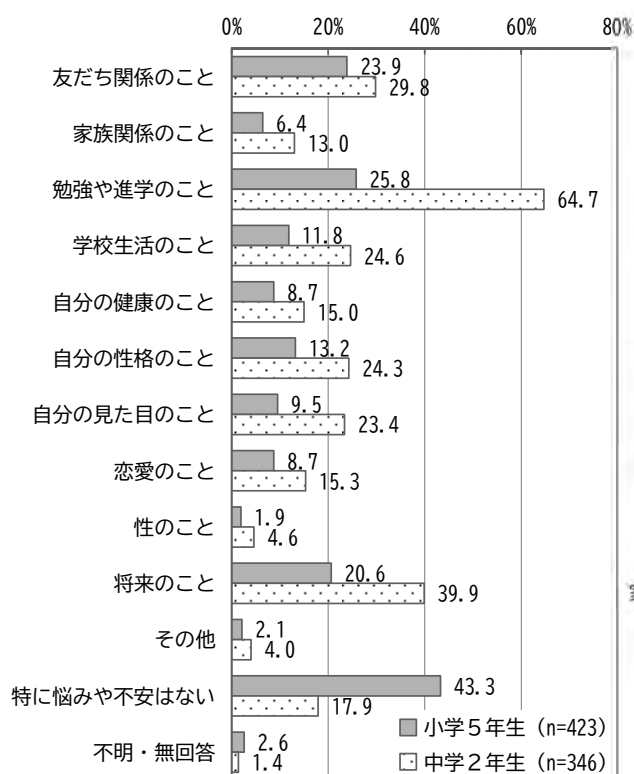
今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった『経験があった（または、現在ある）』が4割以上となっていることから、相談先の周知や必要な支援の提供をより一層進めていくことが求められます。

基本目標3 こども・若者が安全に暮らせる環境づくり

(1)こども・若者の悩みや不安等について

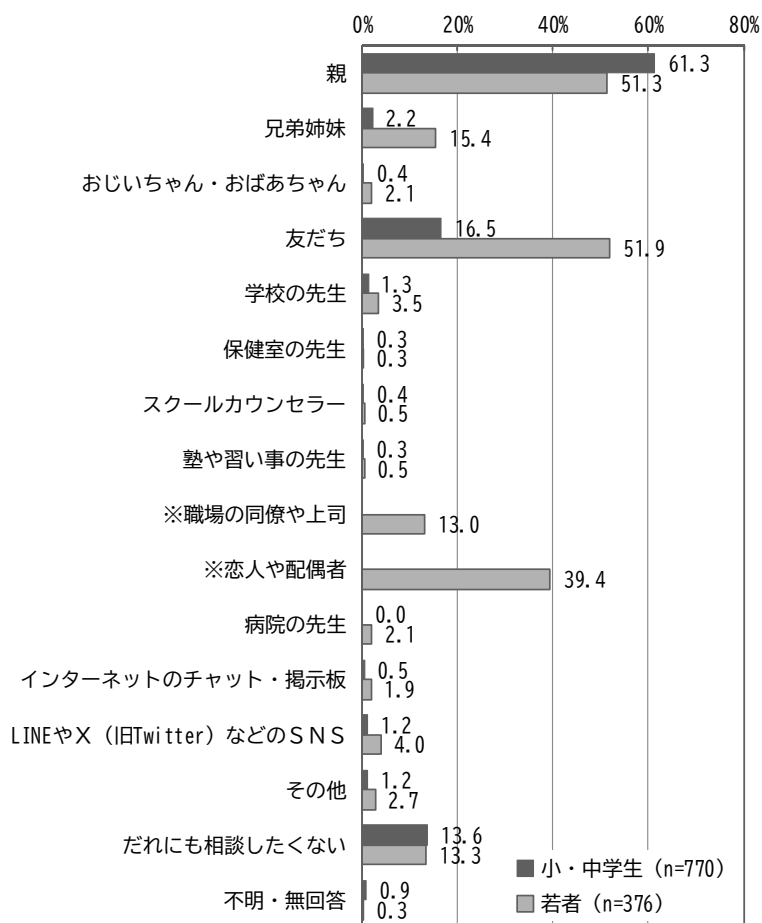
①現在、悩んでいることや不安に感じていること [小・中学生：問 10、若者：問 17] 〈複数回答〉

「勉強や進学のこと」が中学2年生で64.7%と最も高くなっています。「お金のこと」が若者で50.0%と最も高くなっています。また、「将来のこと」が中学2年生、若者で4割前後となっています。



②悩みや不安を感じた時の相談相手 [小・中学生：問 11、若者：問 18] <複数回答>

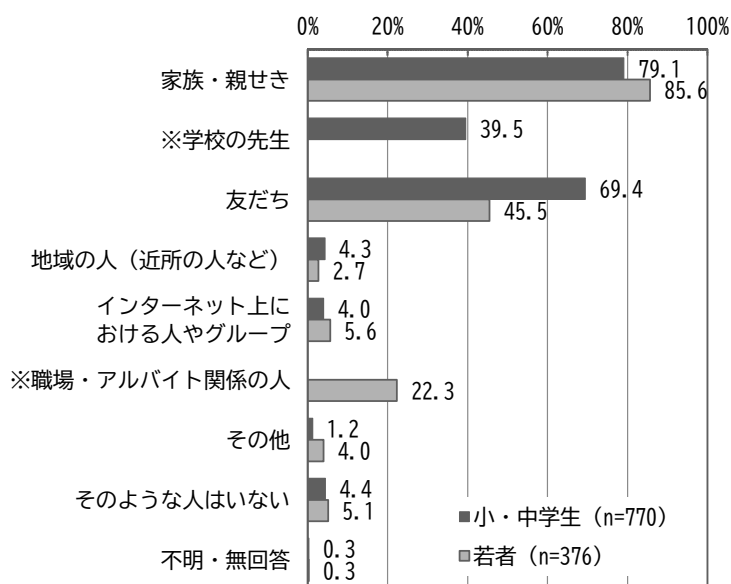
「親」が小・中学生、若者ともに5割以上と高くなっています。また、若者では「友だち」も高くなっています。



※「職場の同僚や上司」「恋人や配偶者」は若者調査のみの選択肢となっています。

③困った時に助けてくれる相手 [小・中学生：問 12、若者：問 19] 〈複数回答〉

「家族・親せき」が小・中学生、若者ともに8割前後と最も高くなっており、次いで「友だち」が高くなっています。



※「学校の先生」は小・中学生調査のみの選択肢となっています。「職場・アルバイト関係の人」は若者調査のみの選択肢となっています。

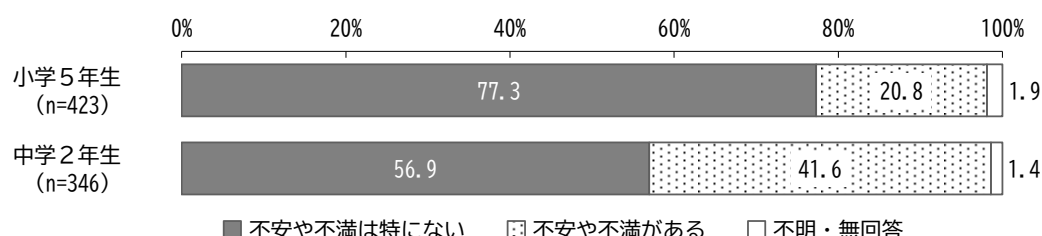
【考察】

悩んでいることや不安に感じていることとして、勉強や進学、就職など、将来に関することが高い割合となっています。相談相手として家族や友人など身近な相手が多くを占めていますが、一方で、「だれにも相談したくない」が1割以上、困った時に助けてくれる相手について「そのような人はいない」も5.0%前後みられるため、支援につながりにくいこども・若者が一定数みられており、相談先や支援機関等の周知をより一層進めていく必要があります。

(2)学校生活での不安や不満について

①学校生活について、不安や不満に感じていることはあるか [小・中学生：問 16] <単数回答>

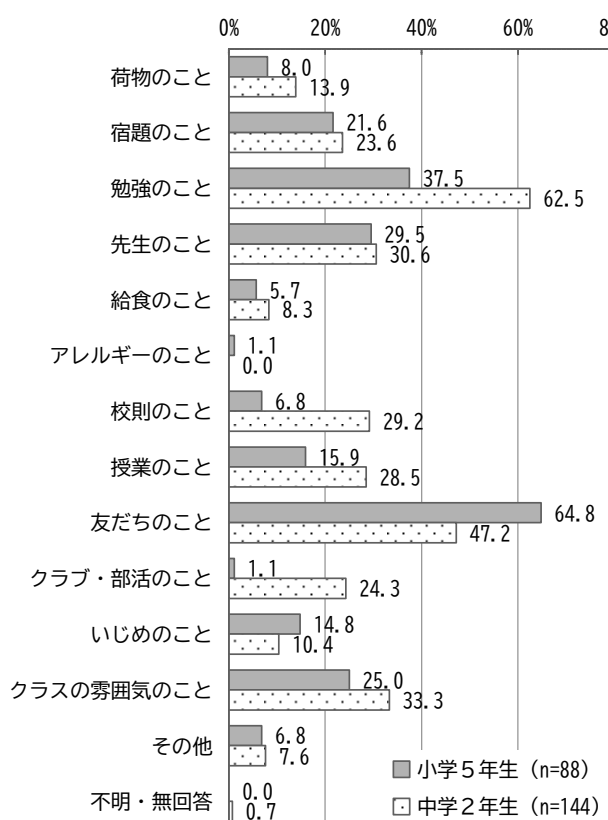
「不安や不満がある」が中学2年生で41.6%と、小学5年生と比較して20.8ポイント高くなっています。



「学校生活について、不安や不満に感じていることはあるか」の質問に対し、「不安や不満がある」と回答した方のみ

②学校生活のどのようなことに不安や不満に感じているか [小・中学生：問 16-1] <複数回答>

小学5年生で「友だちのこと」が64.8%と中学2年生と比較して高くなっている一方で、中学2年生で「勉強のこと」が62.5%、「校則のこと」が29.2%、「授業のこと」が28.5%、「クラブ・部活のこと」が24.3%と、それぞれ小学5年生と比較して高くなっています。



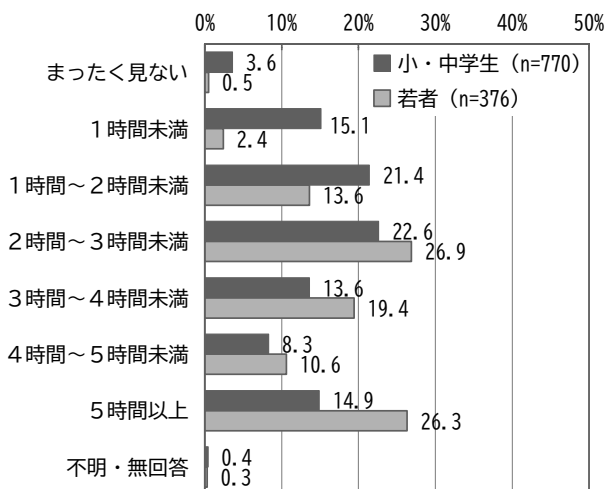
【考察】

学校生活について、小学5年生で2割以上、中学2年生で4割以上が不安や不満を感じています。不安や不満に感じている内容は、小学5年生と比較して中学2年生で勉強や校則、授業、クラブ・部活のことが高く、年齢が上がるにつれて、課題を感じてくる分野となっています。また、「いじめのこと」が小・中学生ともに1割以上みられており、より一層対策を講じていくことが求められます。

(3)子ども・若者の安全確保について

①1日の情報機器の使用時間 [小・中学生：問8、若者：問9] 〈単数回答〉

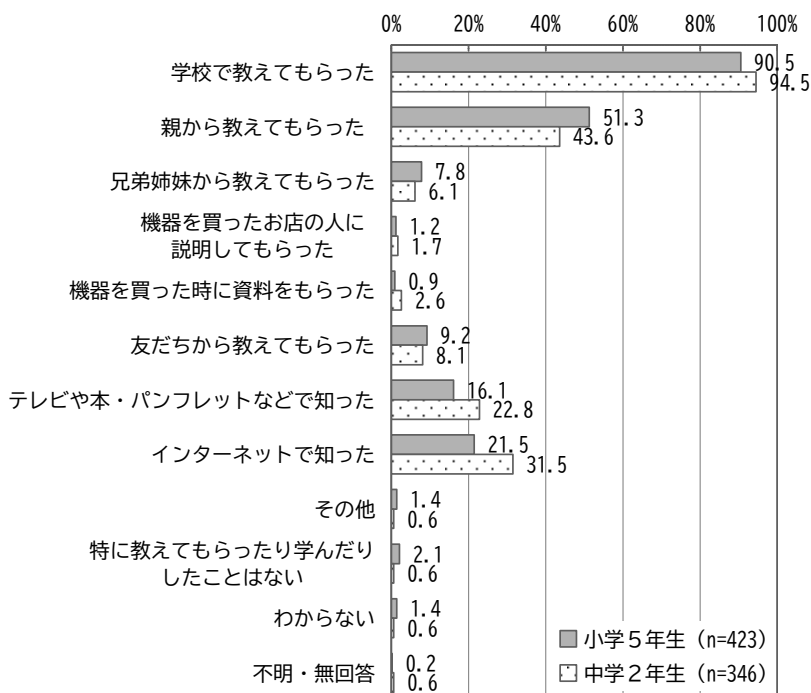
「5時間以上」が若者で26.3%と、小・中学生と比較して11.4ポイント高くなっています。



②インターネットの危険性について、説明を受けたり学んだことがあるか

[小・中学生：問9] 〈複数回答〉

「学校で教えてもらった」が小・中学生ともに9割以上となっており、次いで「親から教えてもらった」が4割以上となっています。



【考察】

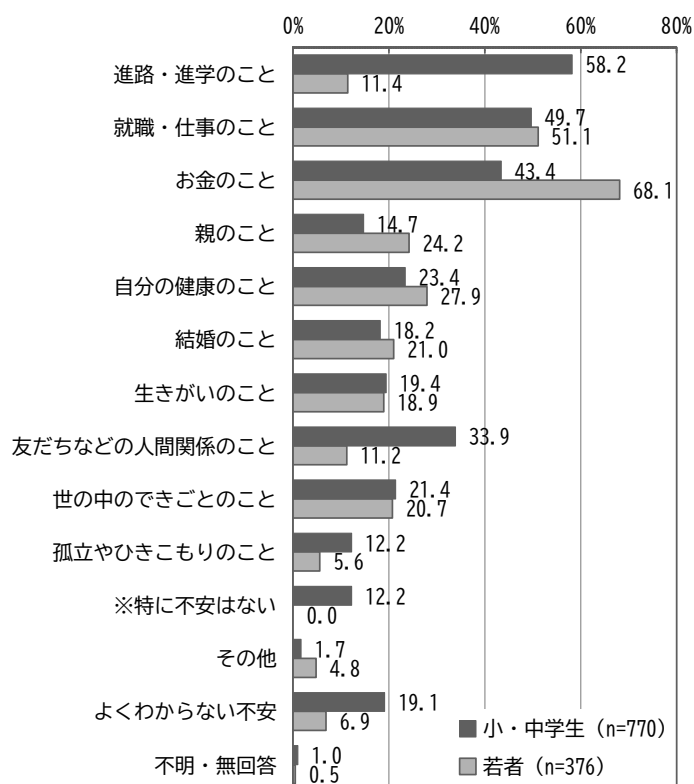
情報機器の使用時間について、「5時間以上」が若者で2割以上、小・中学生で1割以上となっており、インターネットに触れる機会が特に若者で多いと考えられます。情報機器は便利なツールである一方で、扱い方によってはトラブルに巻き込まれることもあるため、若い世代の情報リテラシーを高めるための取組が必要です。

基本目標4 こども・若者が希望を持てる社会づくり

(1)こども・若者の将来について

①将来に対してどのようなことに不安を感じるか [小・中学生：問 27、若者：問 22] 〈複数回答〉

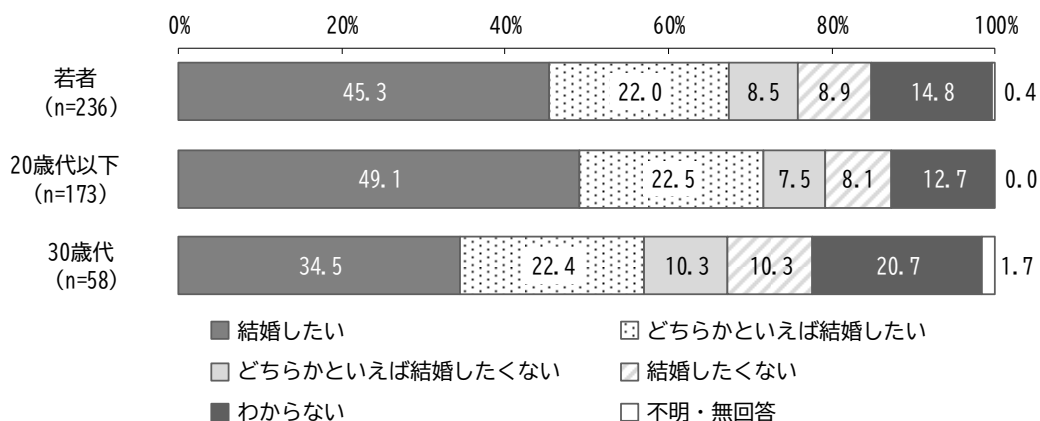
「友だちなど人間関係のこと」が小・中学生で 33.9%と、若者と比較して 22.7ポイント高くなっている一方で、「お金のこと」が若者で 68.1%と、小・中学生と比較して 24.7ポイント高くなっています。



〔「結婚の有無」の質問に対し、「結婚していない」と回答した方のみ〕

②将来、結婚したいか [若者：問 23] 〈単数回答〉

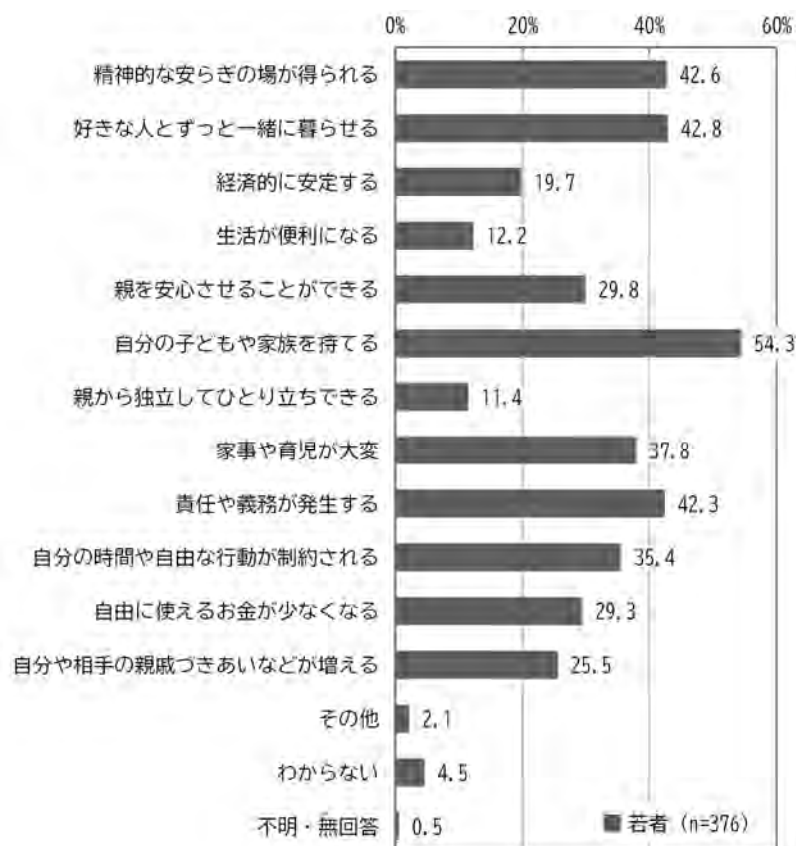
全体で『結婚したい』（「結婚したい」と「どちらかといえば結婚したい」の合算）が 67.3%となっており、特に 20 歳代以下で 71.6%となっています。



※年齢不明の 5 件を除いた結果となっているため、20 歳代以下と 30 歳代の合計は 236 になりません。

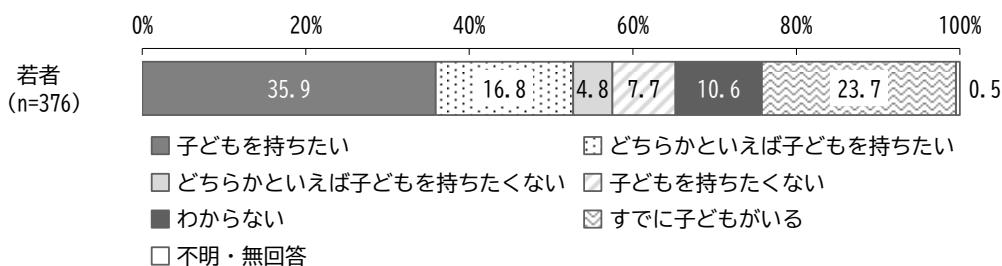
③「結婚」をどのように考えているか [若者：問 27] <複数回答>

「自分の子どもや家族を持てる」「好きな人とずっと一緒に暮らせる」など良いイメージの回答が上位にある一方で、「責任や義務が発生する」「家事や育児が大変」「自分の時間や自由な行動が制約される」なども4割前後となっています。



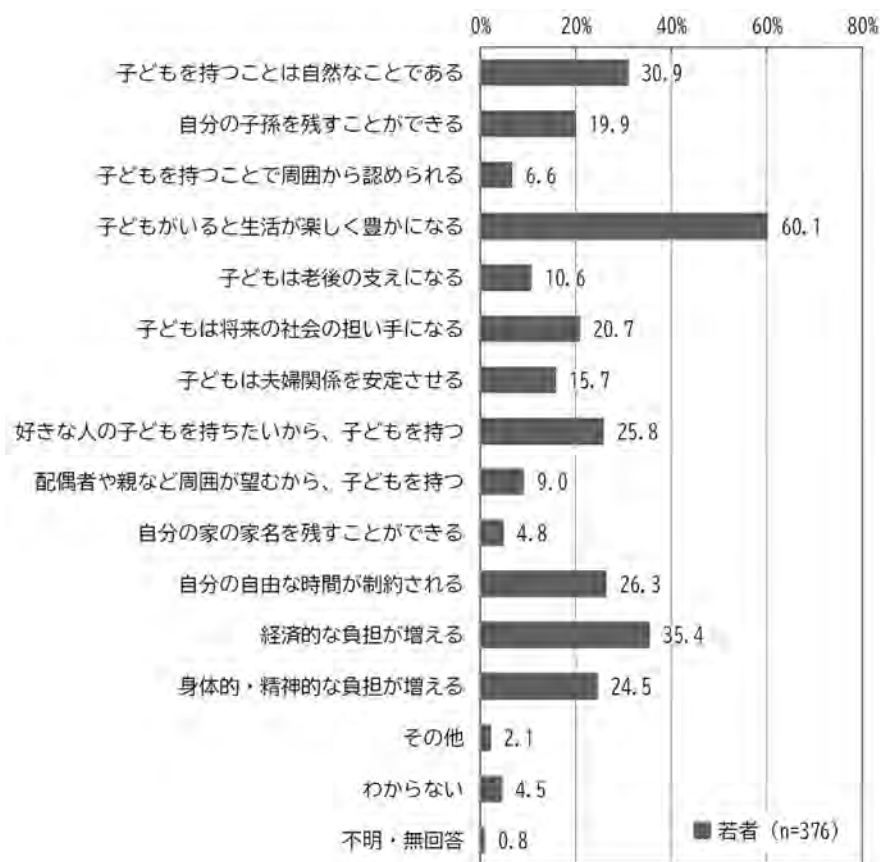
④将来、子どもを持ちたいか [若者：問 28] <単数回答>

『子どもを持ちたくない』（「子どもを持ちたくない」と「どちらかといえば子どもを持ちたくない」の合算）が12.5%となっています。



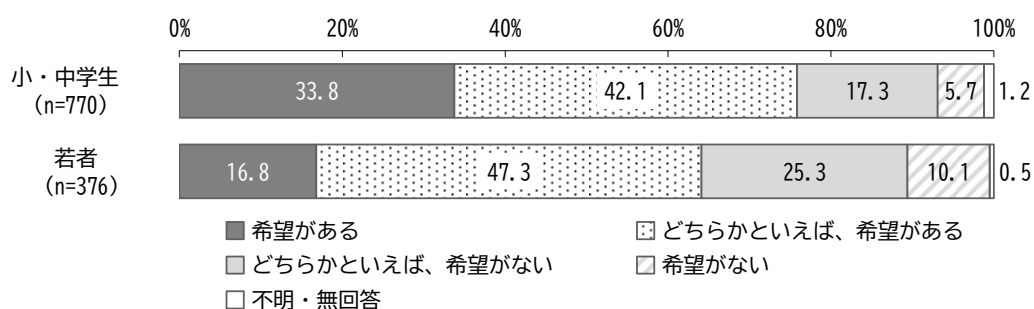
⑤「子どもを持つこと」をどのように考えているか [若者：問 29] <複数回答>

「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が6割以上となっている一方で、「経済的な負担が増える」「自分の自由な時間が制約される」「身体的・精神的な負担が増える」が3割前後となっています。



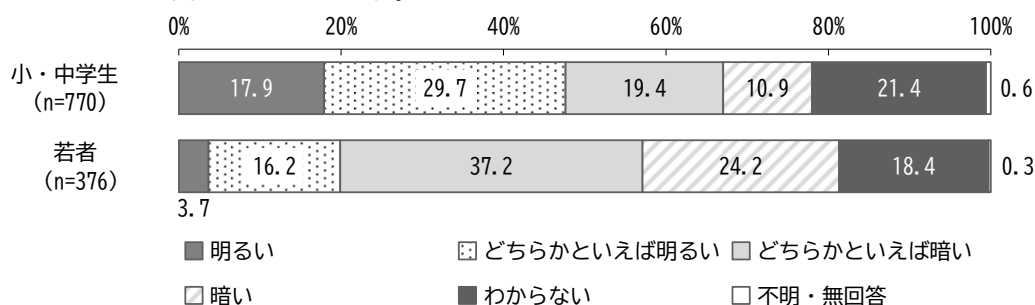
⑥自分の将来について明るい希望を持っているか [小・中学生：問 26、若者：問 21] <単数回答>

『希望がない』（「どちらかといえば、希望がない」と「希望がない」の合算）が若者で35.4%と、小・中学生と比較して12.4ポイント高くなっています。



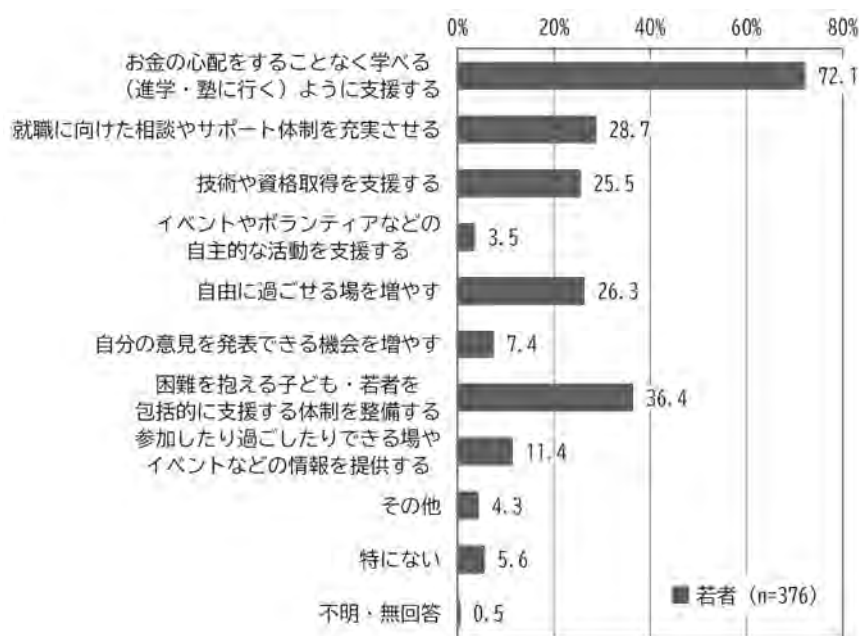
⑦日本の将来は明るいと思うか [小・中学生：問 28、若者：問 30] <単数回答>

『暗い』（「どちらかといえば暗い」と「暗い」の合算）が若者で61.4%と、小・中学生と比較して31.1ポイント高くなっています。



⑧これから子ども・若者のために、安城市に必要なと思う取組 [若者：問 34] <複数回答>

「お金の心配をすることなく学べる（進学・塾に行く）ように支援する」が72.1%となっています。



【考察】

結婚の意向について、『結婚したくない』（「どちらかといえば結婚したくない」「結婚したくない」の合算）が30歳代で20.6%、「わからない」が20.7%と、4割以上が結婚に前向きな意識が薄い状況です。また、子どもを持ちたいかについて、『子どもを持ちたくない』が12.5%、「わからない」が10.6%と2割以上が子どもを持つことに前向きな意識が薄い状況です。子どもを持つイメージとして、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も高い一方で、一部では「経済的な負担が増える」「自分の自由な時間が制限される」等のマイナスなイメージがみられます。様々な観点から子育て世代への支援を充実させるなどして、若者が結婚や子育てを前向きにとらえられるような気運の醸成が必要です。

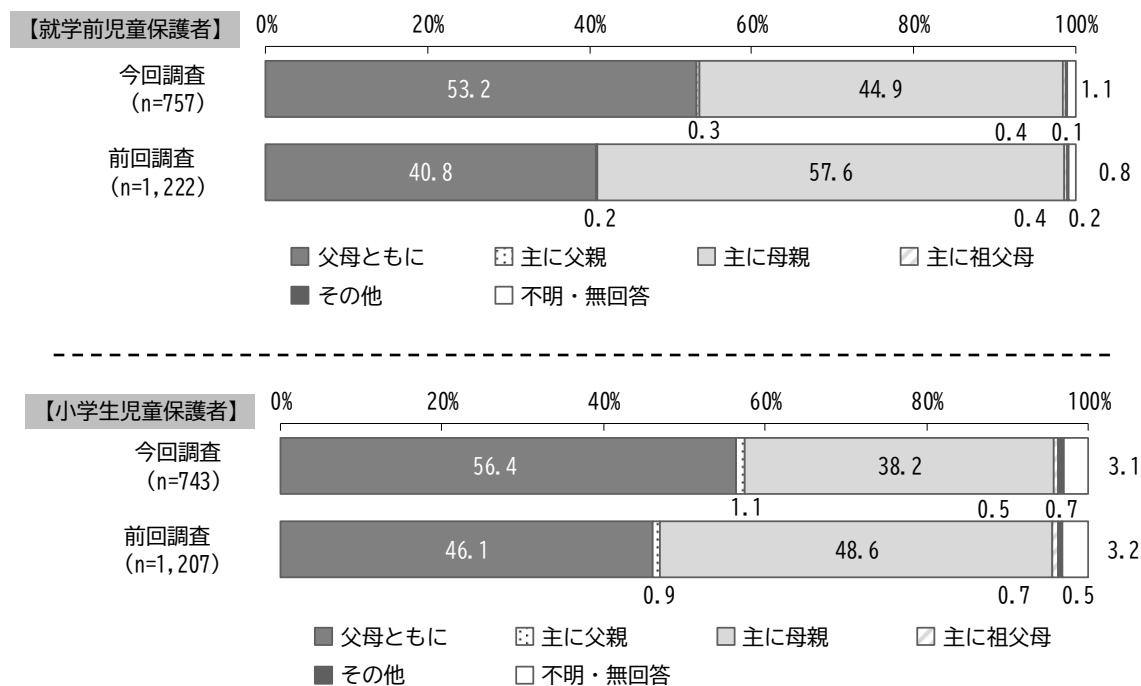
若者調査で、自分の将来に明るい『希望がない』が3割以上、日本の将来が『暗い』と感じる割合が6割以上となっています。また、求められる取組で進学に関する経済的な支援が上位となっており、国等の政策の動向も注視しつつ、取組を検討していく必要があります。

基本目標5 子育て・教育に係る支援の充実

(1)子育て支援に関するサービスについて

①お子さんの子育てを主に行っている方〔就学前児童保護者：問4、小学生児童保護者：問4〕〈単数回答〉

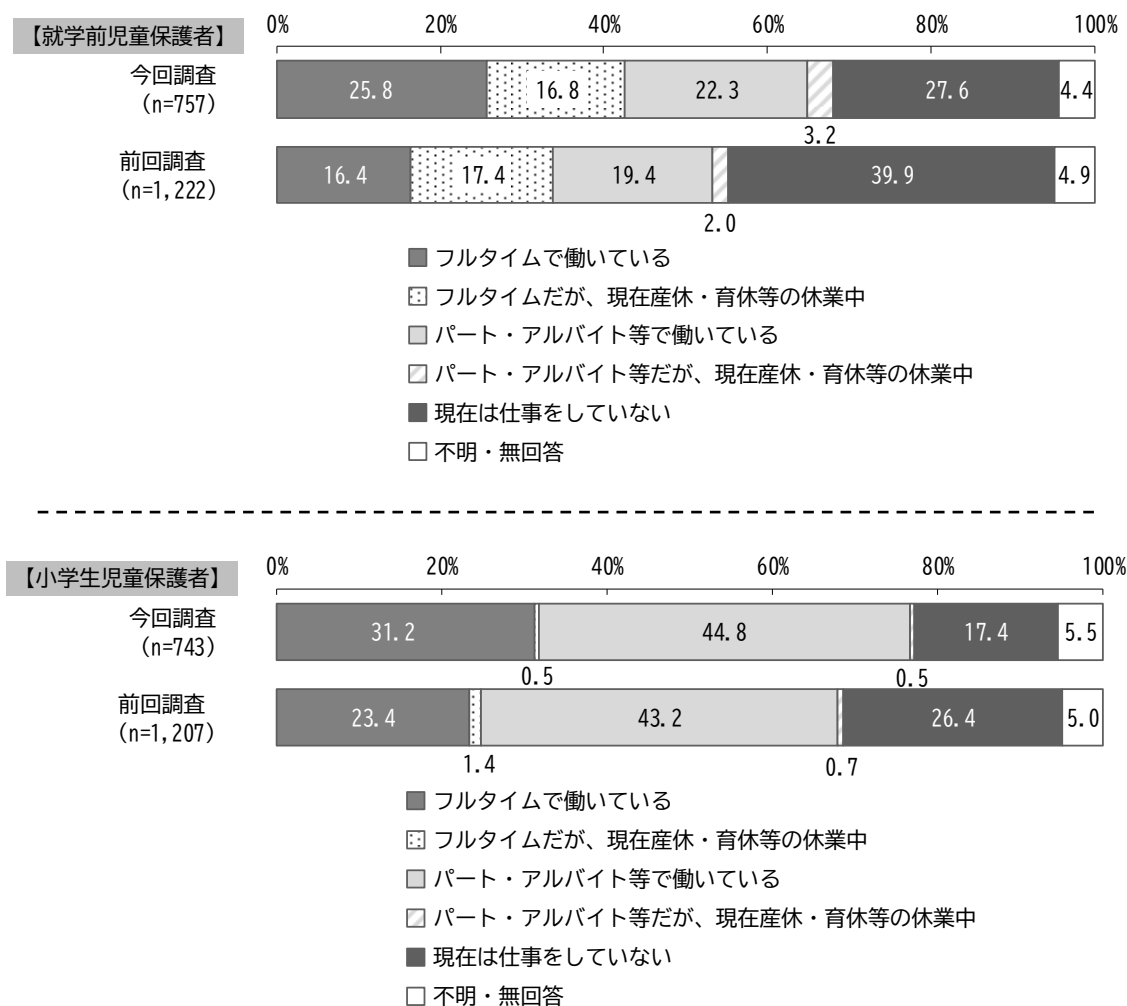
就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに「父母ともに」が今回調査で5割以上となっており、前回調査よりも高くなっています。



②【母親】保護者の就労状況(自営業、家族従事者含む)

〔就学前児童保護者：問9（1）、小学生児童保護者：問9（1）〕〈単数回答〉

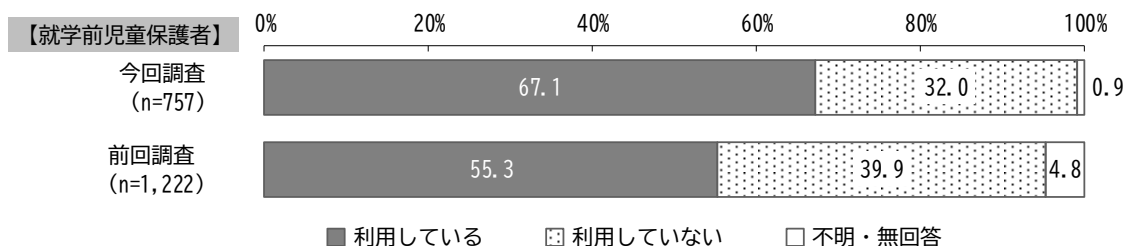
就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに「フルタイムで働いている」が今回調査で3割前後となっており、前回調査よりも高くなっています。一方で、「現在は仕事をしていない」が前回調査と比較して低くなっています。



③現在の、お子さんの定期的な幼児教育・保育事業の利用状況

〔就学前児童保護者：問 11〕 〈単数回答〉

「利用している」が今回調査で67.1%と、前回調査と比較して11.8ポイント高くなっています。



※「定期的な保育・教育事業」とは、以下のいずれかを指します。

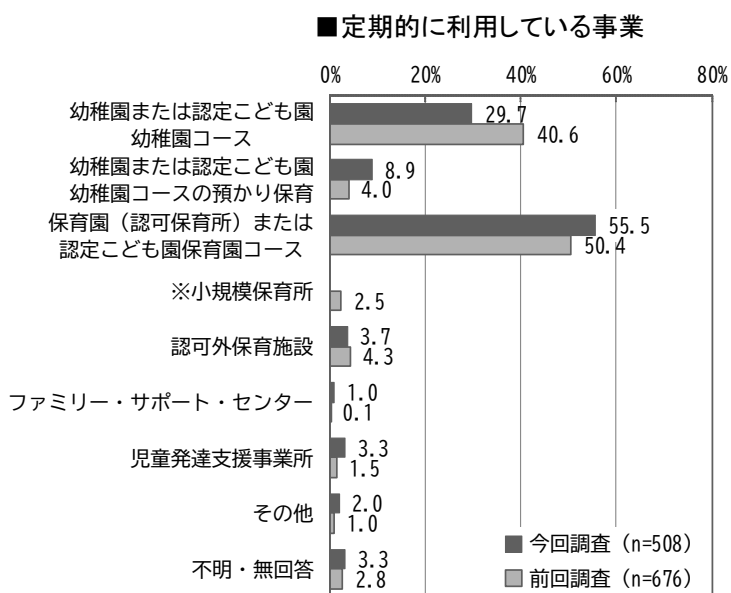
- ・幼稚園または認定こども園幼稚園コース（通常の就園時間の利用）
- ・幼稚園または認定こども園幼稚園コースの預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ）
- ・保育園（認可保育所）または認定こども園保育園コース
- ・認可外保育施設
- ・ファミリー・サポート・センター（子育てを手助けしてほしい人（依頼会員）」と「子育ての協力をしていただける人（提供会員）」が会員となって、お互いに助け合う会員組織）
- ・児童発達支援事業所（障害のある子どもに対して、個別や集団での療育を行う施設）

〔「定期的な幼児教育・保育事業を利用しているか」の質問に対し、「利用している」と回答した方のみ〕

④定期的に利用している幼児教育・保育事業

〔就学前児童保護者：問 11-2〕 〈複数回答〉

「幼稚園または認定こども園幼稚園コースの預かり保育」及び「保育園（認可保育所）または認定こども園保育園コース」では、前回調査と比較して約5ポイント高くなっています。



※「小規模保育所」は前回調査のみの選択肢となっています。

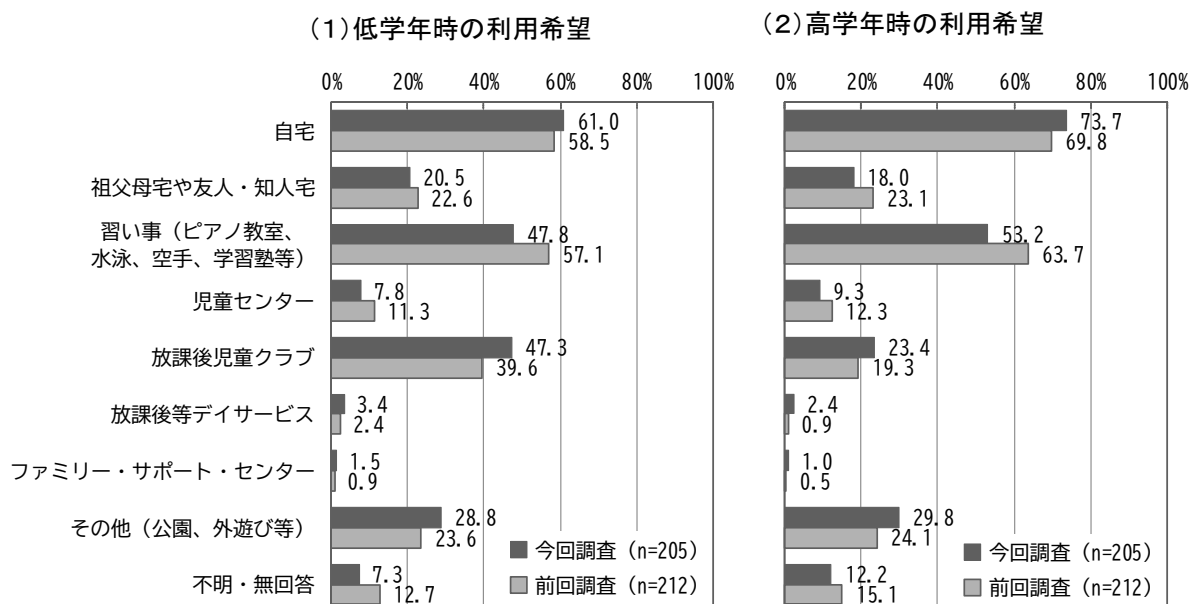
[就学前児童保護者調査において、「お子様の年齢」の質問に対し、「5歳以上」と回答した方のみ]

⑤小学校就学後の希望する放課後の過ごし方、放課後に過ごす場所

[就学前児童保護者：問 22] <複数回答>

5歳以上の子どものいる就学前児童保護者においては、希望する放課後の過ごし方等で「放課後児童クラブ」が低学年時で47.3%、高学年時で23.4%と、いずれも前回調査と比較して高くなっています。

■就学前児童保護者



【考察】

主に子育てをしている方について、「父母ともに」が前回調査と比較して高くなっており、夫婦で子育てに取り組む家庭が増加していることがうかがえます。また、就労状況について、母親で「フルタイムで働いている」割合が前回調査と比較して高くなっており、共働き世帯が増加していると考えられます。

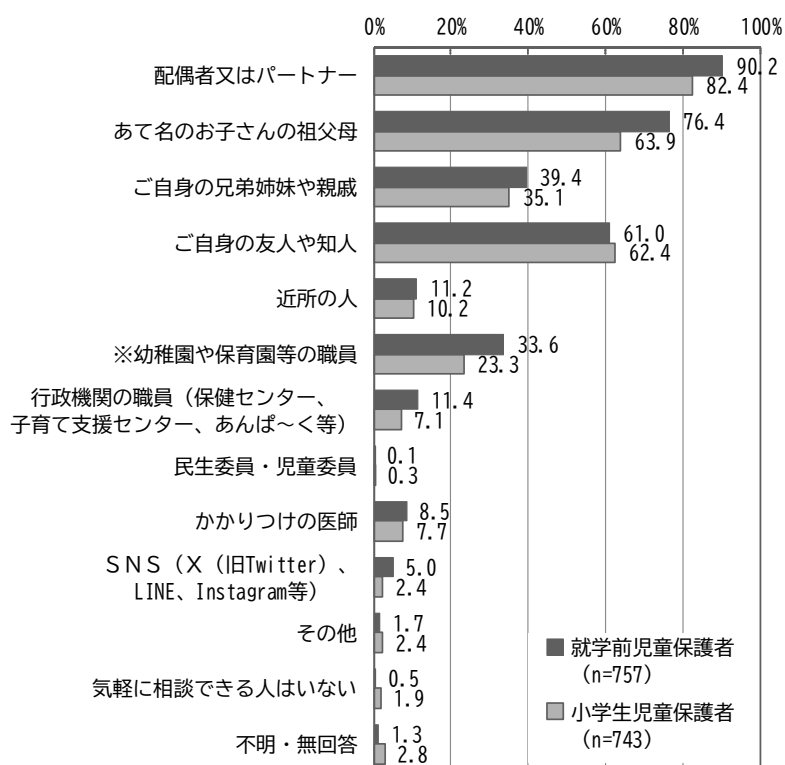
保護者の就労等により、定期的な幼児教育・保育事業を利用している割合が前回調査と比較して高くなっており、「幼稚園または認定こども園幼稚園コースの預かり保育」及び「保育園（認可保育所）または認定こども園保育園コース」のニーズが高くなっています。

小学校就学後の希望する放課後の過ごし方として、「放課後児童クラブ」が低学年時、高学年時ともに利用を希望する割合が前回調査と比較して増加していることから、今後の児童数の動向も含めて検討していく必要があります。

(2)子育てに関する相談や情報の取得について

①子育てに関して気軽に相談できる相手〔就学前児童保護者：問7、小学生児童保護者：問7〕〈複数回答〉

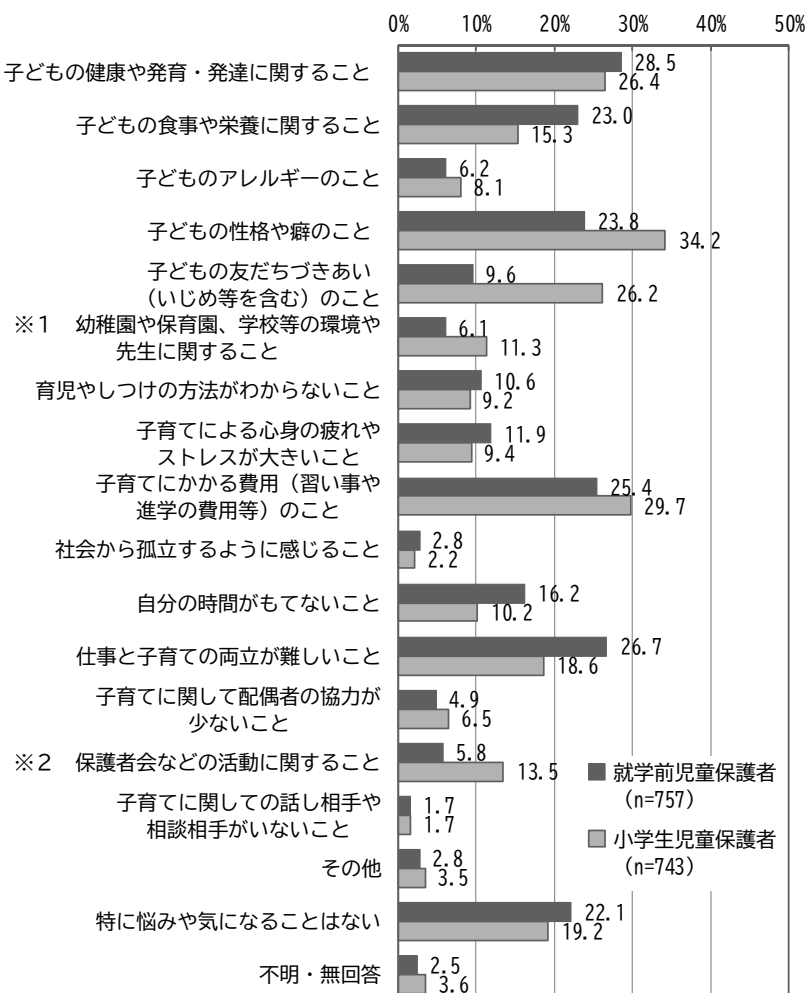
「配偶者又はパートナー」が就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに8割以上となっています。



※小学生児童保護者調査では選択肢が「学校の先生」となっています。

②子育てに関して特に悩んでいること〔就学前児童保護者：問8、小学生児童保護者：問8〕〈複数回答〉

就学前児童保護者においては、「仕事と子育ての両立が難しいこと」が26.7%、「自分の時間がもてないこと」が16.2%と、それぞれ小学生児童保護者と比較して高くなっている一方で、小学生児童保護者においては、「子どもの性格や癖のこと」が34.2%、「子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）のこと」が26.2%と、それぞれ就学前児童保護者と比較して高くなっています。



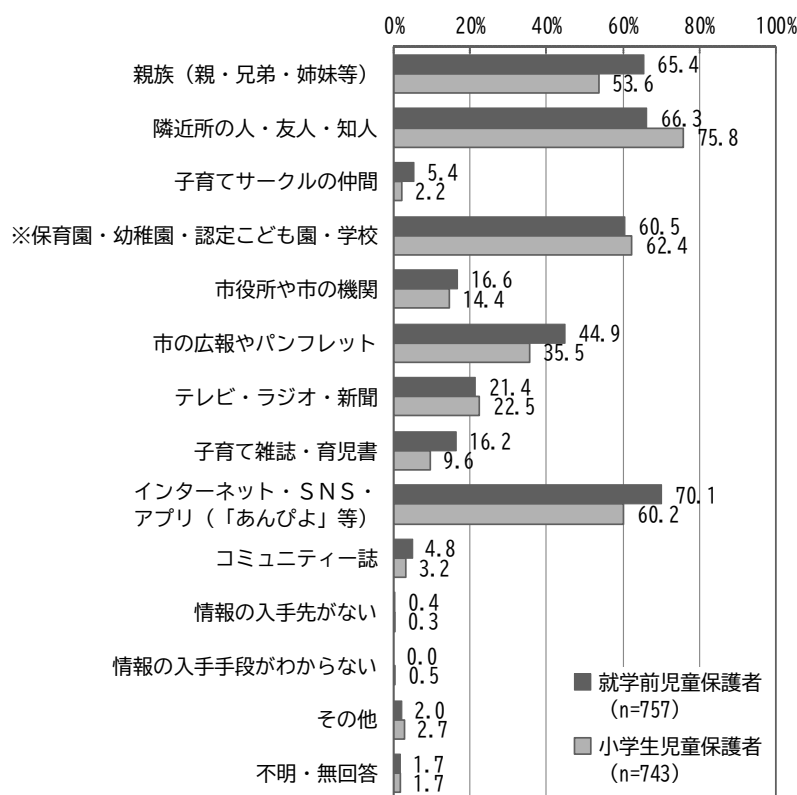
※1 小学生児童保護者調査では選択肢が「学校等の環境や先生に関すること」となっています。

※2 小学生児童保護者調査では選択肢が「子ども会やPTAなどの地域活動に関すること」となっています。

③子育て(教育を含む)に関する情報の入手方法

〔就学前児童保護者：問 23、小学生児童保護者：問 15〕 〈複数回答〉

「隣近所の人・友人・知人」「保育園・幼稚園・認定こども園・学校」及び「インターネット・SNS・アプリ」が就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに6割以上と高くなっています。

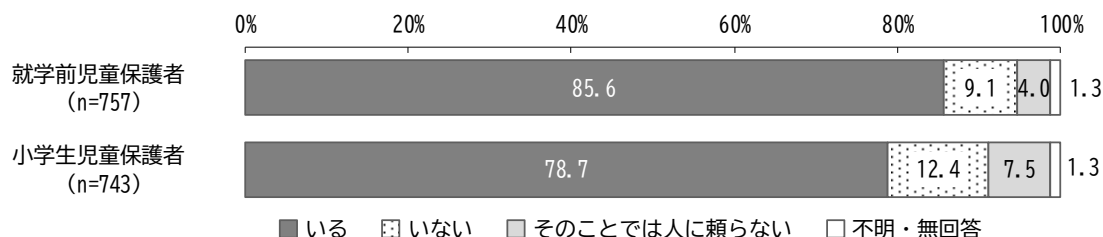


※小学生児童保護者調査では選択肢が「学校」となっています。

④子どもの世話や看病で頼れる人の有無

〔就学前児童保護者：問 28、小学生児童保護者：問 20〕 〈単数回答〉

「いない」が就学前児童保護者で9.1%、小学生児童保護者で12.4%となっています。



【考察】

相談相手や情報の入手先として家族や友人・知人など、身近な人の割合が高くなっています。また、情報の入手手段として、インターネット・SNS・アプリなど情報機器の利活用も進んでいることがうかがえます。

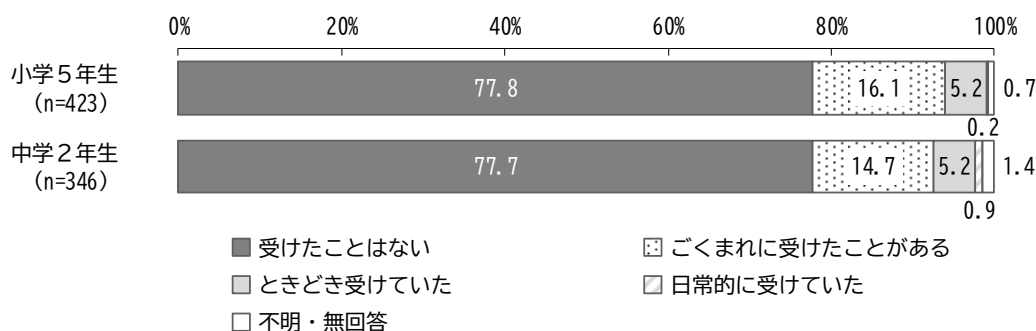
子育ての相談相手で「気軽に相談できる人はいない」割合や情報の入手手段で「情報の入手先がない」「情報の入手手段がわからない」割合は1%台や1%未満とわずかであるものの、子どもの世話や看病で頼れる人が「いない」割合は1割前後となっており、いざという時に利用できるサービス等、支援の充実が必要です。

基本目標6 支援が必要な子ども・若者への支援

(1)虐待の防止、早期対応

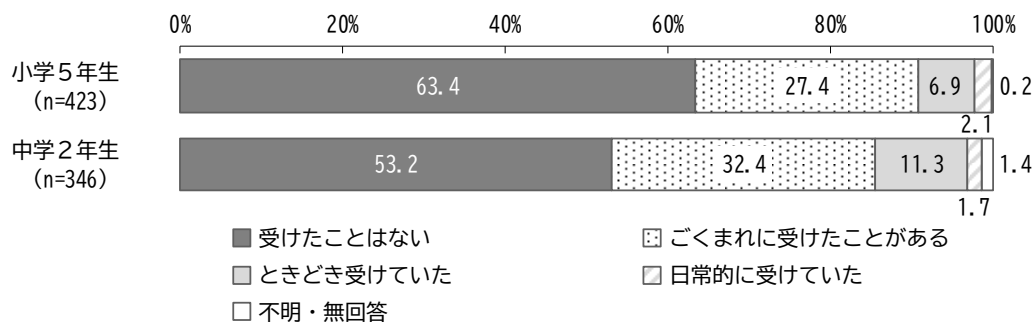
①お父さんやお母さんから体罰を受けたことがあるか [小・中学生：問 20] <単数回答>

『受けたことがある』（「ごくまれに受けたことがある」と「ときどき受けていた」と「日常的に受けていた」の合算）が小学5年生で21.5%、中学2年生で20.8%となっています。



②お父さんやお母さんから言葉によって傷つけられたことがあるか [小・中学生：問 21] <単数回答>

『受けたことがある』（「ごくまれに受けたことがある」と「ときどき受けていた」と「日常的に受けていた」の合算）が小学5年生で36.4%、中学2年生で45.4%となっています。



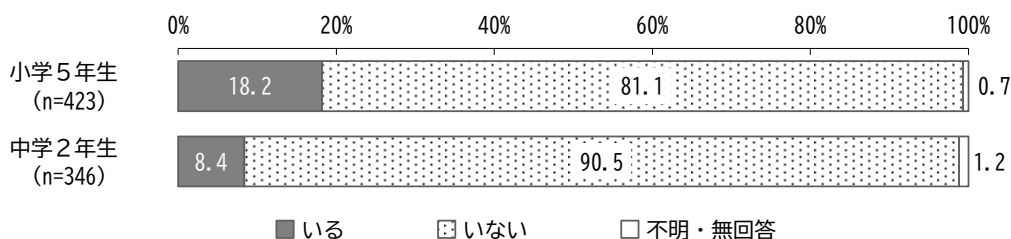
【考察】

家族からの体罰や言葉により傷つけられることがある割合は、「日常的に」はわずかであるものの「ときどき」「ごくまれに」は2～4割程度みられます。暴力は重大な権利侵害であることを改めて周知する必要があります。

(2) ヤングケアラーやこどもの貧困について

① 家族の中にお世話をしている人がいるか [小・中学生：問 24] <単数回答>

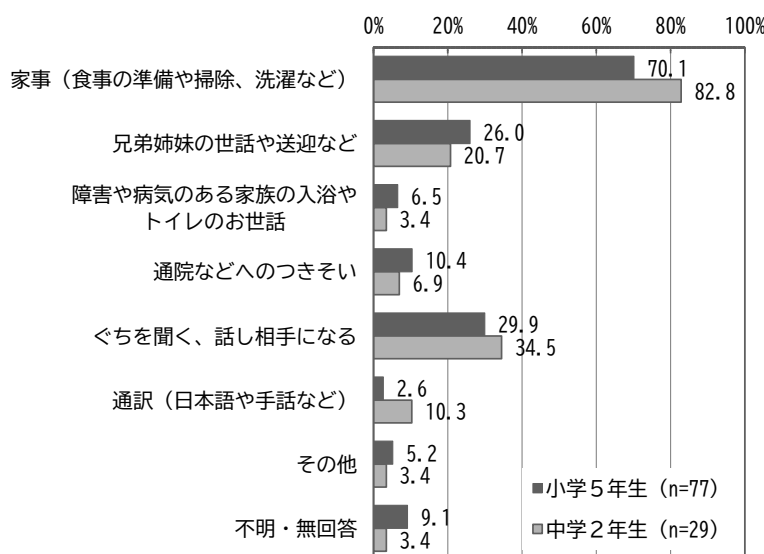
「いる」が小学5年生で18.2%、中学2年生で8.4%となっています。



「家族の中にお世話をしている人がいるか」の質問に対し、「いる」と回答した方のみ

② どのような世話をしているか [小・中学生：問 24-1] <複数回答>

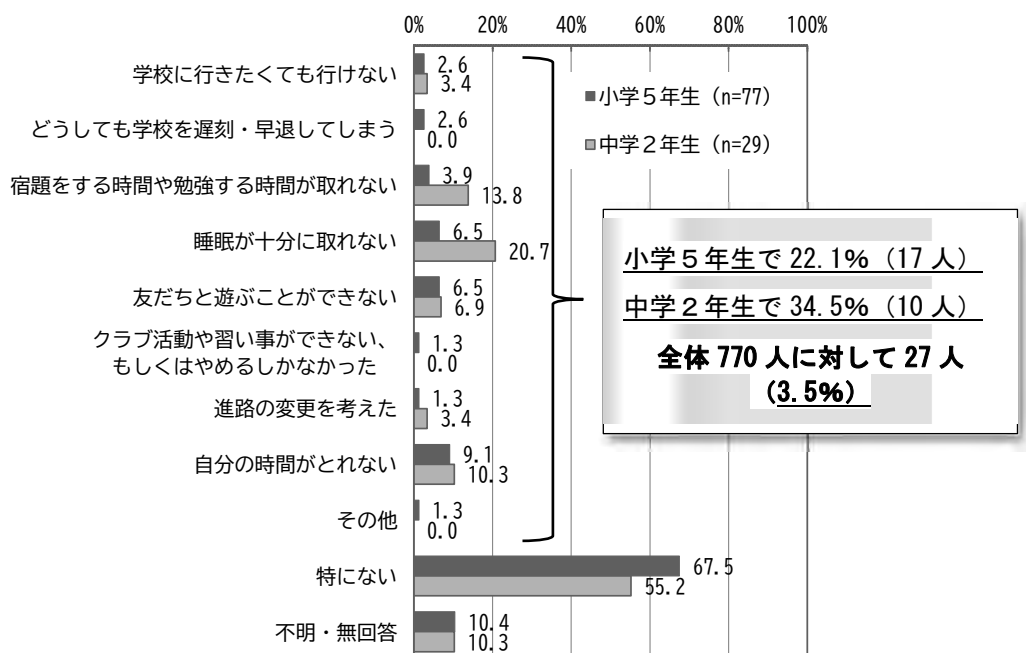
小学5年生、中学2年生ともに「家事（食事の準備や掃除、洗濯など）」が最も高くなっています。



「家族の中にお世話をしている人がいるか」の質問に対し、「いる」と回答した方のみ

③ 世話をしていることで、できていないこと [小・中学生：問 24-2] <複数回答>

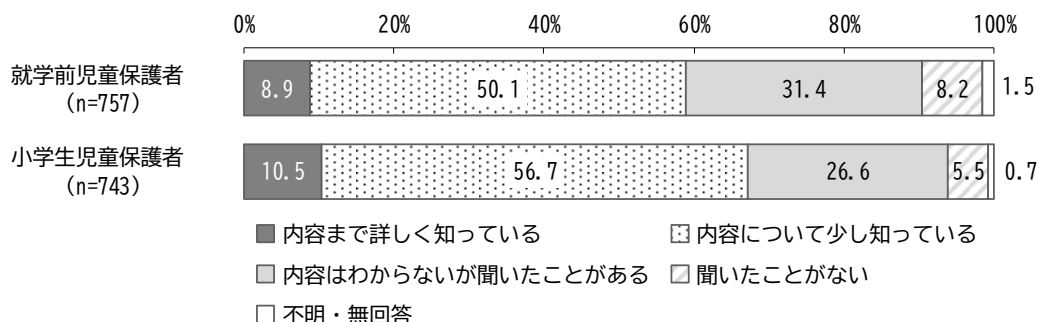
「特にない」「不明・無回答」を除いた人数は小学5年生で17人、中学2年生で10人となっています。



④「子どもの貧困」が社会的な問題となっていることの認知度

〔就学前児童保護者：問 32、小学生児童保護者：問 24〕 〈複数回答〉

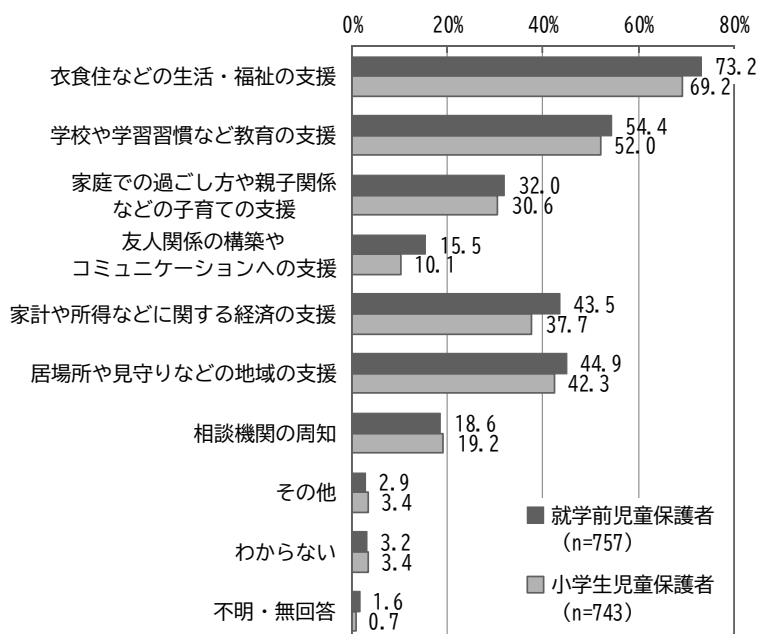
「聞いたことがない」が就学前児童保護者で 8.2%、小学生児童保護者で 5.5%となっています。



⑤「子どもの貧困」に対して必要と思う支援

〔就学前児童保護者：問 33、小学生児童保護者：問 25〕 〈複数回答〉

「衣食住などの生活・福祉の支援」が就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに 7 割前後となっています。



【考察】

家族の中にお世話をしている人が「いる」割合は、小学 5 年生で 18.2%、中学 2 年生で 8.4%であり、家族のお世話をすることで自分の時間がとれなかったり、十分な睡眠が取れなかったりする小・中学生が全体の 3.5%みられます。関係機関が連携して、ヤングケアラー（家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者）に該当する可能性がある子どもに十分な支援が行き届くよう取り組む必要があります。

「子どもの貧困」について、『聞いたことはある』割合は 9 割以上ある一方で、「内容まで詳しく知っている」割合は 1 割程度にとどまっています。「子どもの貧困」について理解を深めるとともに、該当する子どもや世帯に対し、支援につなげていくための取組が必要です。

安城市 こども計画策定に関するアンケート調査
【結果報告書・概要版】

発行年月：令和6年 6月

発 行：安城市

編 集：安城市 子育て健康部 子育て支援課

住 所：〒446-8501 愛知県安城市桜町18番23号

T E L：0566-71-2227 F A X：0566-76-1112
